

氏名	村井美代	部署	健康開発学科	職名	教授
研究分野	細菌学、細菌遺伝学				
学位	博士（医学）				
学歴	1984年お茶の水女子大学理学部生物学科卒業、1986年お茶の水女子大学大学院理学研究科修士課程修了				
経歴	1987年東京慈恵会医科大学医学部細菌学教室助手、1999年埼玉県立大学短期大学部衛生技術学科講師、2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部健康開発学科准教授、2021年同教授				
所属学会（役職）	日本細菌学会、日本臨床検査学教育学会、日本臨床微生物学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	該当なし						
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	埼玉県下水道由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析	共著	なし		臨床検査学教育18(1), 111－112	村山浩基、岸井こずゑ、 <u>村井美代</u>	2026年3月
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	埼玉県下水道由来および臨床由来メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の分子疫学的解析	共同	第19回日本臨床検査学教育学会学術大会、岡山市		○村山浩基、久恒順三、菅原庸、于連升、鹿山鎮男、岸井こずゑ、 <u>村井美代</u>		2025年8月
2	blaCTX-M-15保有プラスミドの大腸菌間における接合伝達の検討	共同	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会第16回学術集会、越谷市		○比嘉茉莉子、一瀬夏菜、 <u>村井美代</u> 、岸井こずゑ		2025年11月
3	埼玉県内下水道由来カルバペネマーゼ産生菌の分子疫学解析	共同	第53回埼玉県医学検査学会、さいたま市		○志村紗季、亀山由奈、原田蒼依、比嘉茉莉子、于連升、鹿山鎮男、 <u>村井美代</u> 、岸井こずゑ		2025年12月
4	2020年から5年間の埼玉県下水道由来ESBL産生Escherichia coliの分子疫学的解析	共同	第37回日本臨床微生物学会総会・学術集会、千葉市		○一瀬夏菜、于連升、菅原庸、鹿山鎮男、 <u>村井美代</u> 、岸井こずゑ		2026年2月
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	埼玉県内の下水道および臨床由来CPEの動向調査と薬剤耐性遺伝子伝播の評価			研究分担者	2025年4月～2030年3月	
2	AMED 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業	アジア諸国と協調して展開するAdvanced One Health Tricycle Project			研究分担者	2023年4月～2026年3月	

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分子細胞生物学	○	13/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを用いて細胞生物学および分子生物学の基礎を解説した。知識の定着を図るため、講義終了前に時間をとってまとめプリントに記入させ、次の授業はじめに答え合わせをした。
2	遺伝子検査学	○	7/7コマ	オリジナルのPowerPointスライドを用いて遺伝子検査の対象と遺伝子解析技術の基礎を解説した。知識の定着を図るため、授業後に講義内容の確認問題を課し、次の授業開始時に学生を指名して答えさせた。
3	微生物学	○	15/15コマ	微生物学の基礎から感染機構まで解説したオリジナルの講義テキストを用いて講義した。知識の定着を図るため、授業終了前に課題に取り組ませ、次の授業はじめに答え合わせをした。
4	臨床微生物学Ⅰ		1/15コマ	オリジナルのPowerPointスライドを作成し、真菌について1コマ講義を行った。
5	医療安全管理学		1/7コマ	医療関連施設における標準予防策および感染経路別予防策についてオリジナルのPowerPointスライドを用いて講義を行った。特に臨地実習で実際に遭遇する感染対策について過去の事例を用いて解説した。
6	微生物学特論	○	6/7コマ	臨床微生物検査の遺伝子検査に不可欠な微生物の分子生物学の基礎知識の復習および英文文献を読むトレーニングを目的に、英語教科書を輪読させた。感染症診断の遺伝子検査の現状と将来について概説した。
7	病因病態検査学	○	3/15コマ	大学院博士前期課程の講義。病理学、血液学、免疫学、微生物学担当教員によるオムニバス講義。担当回2コマで、病原体検出のための遺伝子検査の基礎および利点と限界について解説したのち、1コマで学生に新型コロナウイルスの同定と遺伝子検査について調べた成果を発表させ、その場で評価をフィードバックした。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	臨床微生物学演習		8/8 コマ	抗酸菌培養検査および染色検査、真菌の培養検査、薬剤耐性遺伝子のPCRによる検出、検体のグラム染色写真から起因菌の推定などの指導を、科目責任者と2名で担当した。
2	検査総合演習		1/15コマ	臨床微生物学分野の国家試験の出題傾向を解説し、穴埋め表を用いてまとめを作成させ、知識を整理させた。また国家試験過去問題に何度でも取り組めるよう、過去10年分の選抜問題に併せて覚えない項目を解説に加えた約140問をWebClassにアップした。
3	医療安全管理学演習		2/8コマ	感染症検査のための鼻腔および咽頭ぬぐい液の採取について、頭頸部の解剖に基づく安全な採取法を講義したのち、モデルを用いて採取技術の確認をさせた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習		2025.9	2施設、11人の学生を担当した。
2	微生物学実習	○	24/24コマ	オリジナルの実習テキストを作成して実施した。無菌操作、グラム染色などの基礎技術習得のため、一人一人に個別指導を行った。またグループワークとして一つの実験課題について4人の班ごとに実験からレポート作成までを共同で取り組ませた。科目分担者と2名体制で担当した。

3	臨床微生物学実習		24/24コマ	グラム陽性球菌の混合検体および臨床検体を想定した異なる細菌を含む模擬検体を一人一人に配布し、自力で分離同定検査が進められるように指導した。科目責任者と2名体制で担当した。		
4	臨床検査技能実習		3/24コマ	臨地実習で実施必須となった無菌操作およびグラム染色手技の確認を個別に行い、手技不十分な項目について個人にフィードバックした。また見学必須となった薬剤感受性試験については、学内で未実施の微量液体希釈法について解説し、写真を用いて判定を疑似体験させた。		
5	臨地実習		2025.12～2026.3	1施設3名の実習生の事前指導などを行った。登校日に、担当施設の学生から施設報告を、全施設の学生から微生物検査の科目報告を受けた。科目報告では、学生同士で他施設の状況を共有できるよう発表会形式を取り入れた。		
(4) 論文指導						
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数			
1	卒業論文	2025.4～2026.3	主指導	4名	副指導	4名
2	修士論文	2025.4～2026.3	主指導（指導教員）	2名	副指導（指導補助教員）	2名
(5) その他						
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）			
1	該当なし					
4. 社会貢献活動						
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師						
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ		開催年月	
1	該当なし					
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等						
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称		任期	
1	国立大学法人 埼玉大学		外部評価委員		2024～2025年度	
(3) ジャーナリズムでの発言						
	メディア等の名称			内容	年月	
1	該当なし					
(4) その他						
	項目	相手方等	内容		期間	
1	該当なし					
5. 学内運営						
	項目	内容			期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究開発センター副センター長・共同実験室部会長兼務			2025.4～2026.3	
2	学科等における委員会等	2年生学年担任			2025.4～2026.3	
3	大学広報活動	高校生学内見学者への説明（3校）			2024.5～12	
4	大学広報活動	オープンキャンパス模擬実習担当			2025.8	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）						
	受賞名	主催		受賞年月		
1	該当なし					
7. 特許の取得						
	特許名	特許番号		登録年月		
1	該当なし					
8. 特記事項						
1	該当なし					